

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600218	
法人名	医療法人社団 栄寿会	
事業所名	グループホーム ほほえみ荘	
所在地	佐賀県杵島郡大町町大字福母2591-21	
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日 令和2年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和2年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広間は明るくゆったりとした空間の中で、入居者様の笑い声が聞こえるそんな和やかな雰囲気を感じさせる施設です。各居室は、トイレや洗面台がありテレビの持ち込みも自由でプライベートな空間も楽しめます。年2回の避難訓練を毎年行い、いざという時の防災をキチンと行っています。また全員の健康管理にも母体が医療機関という事もあり、体調不良の時は早急に対応できます。月2回の居宅療養管理指導や週1回の訪問看護も皆さんの健康管理のために行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大町町内で唯一のグループホームであり、医療機関や行政機関との連携も密に取られている。ホームの隣には母体の医療機関と協力医療機関の整形外科が隣接しており、入居者は医療面で安心して生活することができる。ホーム内の共有スペースから中庭を眺めることができ、明るく落ち着いた環境の中、入居者は穏やかに生活されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	東ユニット	西ユニット		東ユニット	西ユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際に「五省」「ほほえみ荘理念」の唱和を行い、意識の統一と気持ちの引き締めを努め、理念に沿った行動や態度を行うよう心がけている。	毎日の申し送りや全体ミーティングでこまめに理念の共有を図られており、職員も理念を意識しながらサービス提供なされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	大町の学校や婦人会、老人会から手作りの物品を利用者さんに贈呈して頂く等慰問に定期的に訪問して下さったり、大町町役場との提携によりオレンジカフェに参加している。	定期的に地区の小学校や婦人会との交流がある。また、オレンジカフェの運営や参加を通して地域との繋がりを持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	栄寿会として認知症を題材とした劇を、地域の要請に合わせて開催したり、運営推進会議において認知症を題材に(地域に向けて何が出来るか等)話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内でのイベントごと、入居者様の生活状況の報告に合わせ、入居状況と人員状況の報告、地域内の状況や介護保険関係について行政、民生委員、区長さんと情報交換を行っている。	運営会議の参加者からの意見を受け、防災対策等にも活かされている。基本的に平日の午後に会議が行われており、家族の参加が難しい状況にある。	開催日の検討や、参加の呼びかけの工夫など、家族の参加が増えるよう、今後も取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	避難訓練時に民生委員、区長さんの参加を呼びかけ、緊急時に向けての連携を図っている。空室状況を地域包括支援センターや他機関と連携をとり、協力して頂いている。	大町内で唯一のグループホームであり、地域包括や行政とは密に連絡を取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修への定期的な参加と、施設内での研修を合わせて行っている。現在玄関の施錠は行っていないが、帰宅欲求が強い方がおられ、無断外出される危険性が高く、家族様の要望もあり内側のドアの施錠を行っている。	施設内外の研修会や勉強会などで理解を深められている。しかし、ホールの入口は施錠している状況にある。	ケア方法の検討や、職員の連携など、施錠に頼らないケアに向けての検討について期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修への定期的な参加と、施設内での研修を合わせて行い、職員の知識の安定に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政との連携をとり、成年後見制度を利用されている入居者様の身体のおきどころや財産を守る支援に取り組んでいる。定期的に開催される研修への参加も積極的に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、管理者が重要事項説明書の説明を行い、施設サービスにおける理解を得ることで、ご家族様の不安や意向を聞き取るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議開催時に本人様やご家族様の意向をお聞きし、ケアプランの改善を図ったり、事務長や経営者へ相談することで運営への反映に取り組んでいる。	家族面会時等に、職員から積極的に意向確認を行われている。家族からの意見を取り入れ、体操等を行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット、スタッフミーティングの際に改善点を議題として上げ、話をまとめた上で、部門長会議へ持ち寄り、改善の提案を検討し運営への反映に取り組んでいる。	ユニット会議やミーティングでは職員から気兼ねなく意見が出されており、その後に実際の反映への検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格試験や研修参加を推奨、サポートし職員の向上心に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善加算1を算定し、研修委員会が主体となり、キャリアパスに取り組み、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人より佐賀県グループホーム協会へ加盟し、同業者との交流の機会を図るとともに、そこで得た知識を勉強会を通じて職員へ還元している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴や性格の情報を吟味しながら傾聴し、寄り添いながらご本人の希望や困っていることを聞き取り、お互いの信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に、ご利用者のこれまでの経緯や困っていることなどを十分に聴き取ることで受容し、御家族の要望が引き出しやすい雰囲気作り心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時にお話していく中でどういったサービスを必要とされているのか御家族に確認しながら適切なサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間に要る職員と一緒に洗濯物を干したり畳んだりするなどの軽作業を共に行い、生活の共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設の様子を「ほほえみ荘便り」に記載して送付している。担当者会議にはご本人、御家族が参加をしてサービス内容の確認と同意をして頂き御家族を巻き込んだ支援をするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診時などの本人様に馴染み深い方との関わりを大切にしている。古い知人の方に定期的に訪問して頂くと同時に、ボランティアの訪問時にも馴染みの方がおられる際は同様に大切にしている。	外出時や訪問時には、馴染みの人と心地よく過ごせるよう、時間や場所の配慮がなされている。馴染みの場所への訪問は、要望があれば対応できる体制を取っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関わりの中で、状況に応じて職員が介入することで、その場の雰囲気盛り上げたり、話しやすい環境の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は、医療が主となり入院へ移行されること多く、医療機関との連携に合わせ、ご家族様からの相談時は合わせて対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己に気持ちを傾聴して、他職員と検討しながら本人の意向がその方にとって安全で有効なのか 考えた結果。困難な場合は説明それに近い提案を伝える。	意思疎通が困難な入居者に対しても職員間で意向の把握について検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者お一人がこれまでの人生の中で思い入れのあるものを生活歴や談話の中から引き出しその方の言動の意味を把握して接するよう務める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	性格上、一人である方が良い方は、自室でテレビを観て過ごして頂き、カラオケがお好きな方はみなさんと一緒に過ごされ個別に支援するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	メンバーより情報の収集をし、担当者会議後計画書作成に取り入れて個々の計画に基づいた支援を提供します。	介護計画は、6か月ごとの見直しと、毎月のモニタリングを行い、適宜状況に即した計画をチームで検討し、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や各ユニットミーティングで個別サービスを話し合ったことや援助内容の見直しや工夫をした支援を共有し目標達成を目指します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化や精神状態の変化に応じてセンサーライト、センサーマットであったり、食事形態の変更、食席の席替えを行い状態にあったサービスの対応を提供します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントの参加、近所の畑を借り 近隣の方々とさつまいもの収穫をしたり職員と一緒に楽しみます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、必ず主治医は本人や家族の意向を確認して決定します。	基本的にかかりつけ医の受診を支援しており、家族での病院受診が困難な場合には、ホームで受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は24時間ONコール、相談や質問をしながら情報を交換したり、タブレットで患部の写真を送ったり ラインワークスで訪問看護とメンバー全員が同時に情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り合い利用者の状態を把握したり、来院して直に確認したり、医師と家族のカンファレンスに同席させてもらい先生や家族、看護師、SWと情報を共有する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針については入居契約時に同意書を頂いている。いざ看取り実施時には、医師や訪問看護、家族と密に連携を取り終末期を迎えて頂く支援を行っている。	入居時に意向を確認し、状況に応じて適宜、本人・家族の意向確認を行っている。医師や訪問看護師と連携しながらターミナルケアの実践もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており職員全員周知するようミーティングで繰り返し説明している、実践時には実際行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各マニュアルがあり、また避難訓練を年2回行い全職員が把握できるようにし 民生委員や区長の参加してもらい助言や気づきを話し合っている。	備蓄や備品の購入等は法人で行われている。昨年の豪雨災害時は役場まで避難やボランティアの受け入れ等がなされている。火災避難訓練も計画的に実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの尊厳に配慮し職員同士で言葉使いに気を配っている。	言葉使いに気を配られており、ミーティング等で適宜、振り返りをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様との会話の中から言葉の背景を読み取るよう心がけ、日常生活の意思決定の中で本人様の意向を確認した上でサポートするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせた支援を心がけており、職員主導のケアにならないよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて衣服の選別を行い、助言を求められた時は本人様と一緒に選別している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個々に合わせた食事形態を提供している。調理そのものを手伝って頂くことはないが、食器の準備やお盆ふきなどを手伝って頂いている。	献立表は事前に作成されているが、入居者の好みに合わせ柔軟に対応されている。食事の準備や片付けなど、できる所を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもと献立にそった食事の提供を行っている。日々の記録による個々の水分量の把握と、状況に応じてご家族様協力のもと栄養補助食品の活用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助、半介助が必要な方は声掛けして毎食後の口腔ケアを行っている、自立の方は隣に付き添い声かけにて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった排泄リズムを大切にしている。声かけを行い車椅子の方はトイレに誘導し必要に応じて2人対応にて排泄介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう、適切なトイレ誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量の記録を行い、必要に応じてご家族様協力のもと嗜好品の活用を行っている。日々のラジオ体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立の方は本人様の希望に沿った日時の変更を行ってはいるものの、介助を必要とする方は、職員主導での日時決定傾向になりがちにある。	状況に応じて順番や入浴日など入居者の要望に沿った支援を提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠障害等については医療、介護面から適宜対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルへ個別に薬情報の保管を行い、新しい薬情と随時交換を行い観覧することで、前入居者様の薬の目的、用法、要領についての理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様協力のもと嗜好品の提供を行って頂き、入居者様の食の楽しみとして対応させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の了承のもと、地域イベントへの参加や、近所の畑を借り近隣の方々とさつまいもの収穫を行うなど、気分転換に努めているが自立度が高い方に限られている現状がある。	最近は外出自粛の為、ホーム内で日光浴や中庭で園芸等していただき、入居者の要望に対応されている。ホームで対応困難な場合は家族に協力を依頼されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1万円程度の金銭を御家族から預かり、必要に応じて一緒に買い物に行くなど、お支払い出来る様に支援している。お金を所持していないと不安を持たれる方に関しては、ご家族様確認のもと一部ご自身で保管して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯を所持していらっしゃる方もおられるが、主には本人様、ご家族様からの希望があった場合に、荘の電話を使用し仲介、調整を行いお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルーム証明も明るさを保つためホワイトベースを取り付け、イベント時にはその時に応じた装飾を行い季節感を感じて頂いている。月々に環境係を取り決め、床清掃等の美化に努めている。	共有スペースの照明を統一し、明るい空間づくりがなされている。職員間で順番に環境係を担当することで共有空間の美化を職員間で共有されている。トイレの表示など、入居者が混乱されない配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて家具の配置を変えるなどの対応を行い入居者様が過ごしやす空間を提供できるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内においては、特に規制の縛りは持たず、生活環境に合わせて本人様の希望にそよう努めている。	入居者の思いを大事され、思い入れのある観葉植物など、持ち運びの難しい物でも工夫しながら馴染みの物を居室に設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に応じ車椅子、歩行器、押し車を使用して頂き、ケアプランにそった支援のもと、本人様の自立を主に生活していただいている。		